



ASF^{※1} シッピング・エコノミクス・レビュー委員会 (SERC) の第22回中間会合が2010年3月2日、東京で開催された。SERCは、ASFの5つの常任委員会^{※2}の一つで、アジア船社の上級役員が海運に関するマクロ経済的な貿易情報やその動向を検討し、主要貿易問題の展望を共有することにより、経営意思決定の質を高めることを目的としている。

同会合は、2008年12月8日の第21回会合（於：東京）に続くもので、昨（2009）年5月に本委員長職に就任した工藤泰三委員長（日本船主協会常任理事、日本郵船社長）をはじめ、SERC中間会合初参加のインド船主協会（2009年5月加盟）代表など、ASFメンバー船協^{※3}から7カ国/地域の



発言する工藤泰三委員長
（日本船主協会常任理事）

代表19名が参加し、率直かつ活発な意見交換の後、了解事項を採択して会合を終了した。（了解事項、出席者リストは【資料1】、【資料2】の通り。）

会合では、世界経済現況、太平洋/アジア域内コンテナ航路の需給見通し、ドライバルク/タンカーの市況動向を共有したほか、独禁法適用除外制度問題や環境問題など海運を取り巻く重要事項についても議論された。また、同会合ではSERCの今後の役割について、工藤委員長から問題提起がなされた。議論の主要点は以下のとおりである。

① 世界経済

アジア船社のCEOは、事業運営を見直す際、この世界同時不況の影響や今回学んだ教訓を冷静に考慮することが重要であることを認識した。

② ドライバルク/タンカー部門

・ドライバルク：主に中国やインドにおける鉄鉱石および石炭の輸入量増加に支えられ、波はあるものの、堅調を維持することを認識するとともに、中国の旺盛な需要により、2010年に起こりうる大量の新造船引渡しへの懸念が緩和されることに留意した。

・タンカー：2010年のタンカー市況は、高水準の新造船供給が見込まれることから、当面は軟化傾向が続くと認識が示された。

③ 定期船部門

定期船業界全体は前例のない困難に直面しており、その深刻さについて荷主の正確な理解が得られるよう、船社は荷主との建設的な関係を促進させることが重要との見解で一致した。

④ 独禁法適用除外制度

独禁法適用除外制度が海運業界全体の健全な発展にとって不可欠であるというASFの長年の立場を確認、同制度の必要性や船社間協定の重要な役割について政府・荷主といった関係者の理解を求めため、引き続き努力することに合意した。

⑤ 環境問題

海運業界は企業の社会的責任の一環として、船舶の排出ガス削減に一丸となって取り組むことが不可欠との認識で一致するとともに、排ガス削減・燃費節減の効果的な手段である減速航行を実施するにあたっては、荷主の理解を得るため、荷主と協議し最大限の努力をすることが奨励された。

⑥ SERCの今後の役割

委員長はSERCの今後の役割を様々な視点から見直すことを提案、出席者は第19回ASF香港総会（2010年5月25日）のSERC会合で意見交換することで合意した。

⑦ その他

パナマ運河通航料問題：ASFとしてパナマ運河庁に対し、通航料値下げを求める内容の意見書を提出することで合意した。■

（日本船主協会 企画部）

※1 アジア船主フォーラム (ASIAN SHIPOWNERS' FORUM : ASF)

ASFは、アジア地域船主間の相互信頼と協力関係の育成を目的として、1992年に日本船主協会の提唱により設立された。総会を毎年各国船協の議長回り持ちで開催。また、5つの常任委員会^{※2}が設置され、原則として年次総会の間に中間会合を開催している。ASFの船主および船舶管理者は、世界商船船腹の50%近くを支配・運航していると推定されている。2007年10月に常設事務局をシンガポールに設置。現事務局長は、日本船主協会前常務理事・園田裕一氏である。

※2 常任委員会 (5S)

・シッピング・エコノミクス・レビュー (Shipping Economics Review Committee : SERC)

・船舶リサイクル (Ship Recycling Committee : SRC)

・船員 (Seafarers Committee : SC)

・航行安全および環境 (Safe Navigation and Environment Committee : SNEC)

・保険法務 (Ship Insurance and Liability Committee : SILC)

※3 ASFメンバー

アジア8地域/国の船主協会：

日本、韓国、中国、台湾、香港、ASEAN(インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)、豪州、インド

【資料 2】

アジア船主フォーラム (ASF) シッピング・エコノミクス・レビュー委員会 (SERC) 第 22 回中間会合

日時：2010 年 3 月 2 日 (火)
場所：東京 (日本船主協会会議室)

出席者

委員長

工藤 泰三 (日本船主協会 常任理事 (日本郵船 社長))

メンバー

中国船主協会

Mr Chen Hua Feng (General Manager, Operation Dept., China Shipping Container Japan Co., Ltd.)

アセアン船主協会連合会

インドネシア船主協会

Mr Jaka A Singgih (Group Managing Director, Bumi Laut Group)

マレーシア船主協会

Mr Balbino Juanito (Senior Manager-Planning, Compliance & Risk Management, Liner Business, MISC BHD)

シンガポール船主協会

Mr Goh Teik Poh (President, South Asia Region, APL Co. Pte Ltd.)

タイ船主協会

Mr Teoh Tee Hien (Executive Vice President(Trade), Regional Container Lines Group)

香港船主協会

Mr Allan T S Wong (Managing Director, Corporate Sales, OOCL Ltd.)

インド船主協会

Mr Haider Nawaz (Vice President (Business Development), Varun Shipping Company Ltd.)

日本船主協会

村上 英三 (川崎汽船 専務執行役員)
池田 潤一郎 (商船三井 執行役員)
楠岡 孝武 (東京船舶 社長)
田中 康夫 (日本郵船 経営委員・技術グループ長)
林 忠男 (日本船主協会 副会長)

韓国船主協会

Mr W W Lee (Executive Vice President, Chief Executive, Container Liner Business, Hanjin Shipping Co., Ltd.)
Mr S D Lee (Senior Vice President, Head of Liner Unit, Hyundai Merchant Marine Co., Ltd.)

台湾船主協会

Mr Daniel Liu (President, Evergreen Shipping Agency (Japan) Corp.)
Mr C K Ong (President, U-Ming Marine Transport Corp.)
Mr Randy Chen (Director, Wan Hai Lines Ltd.)
Mr R B Chiou (Senior Executive Vice President & Executive Officer of Liner Business Group, Yang Ming Marine Transport Corp.)

ASF 事務局

園田 裕一 (アジア船主フォーラム事務局長)

弁護士

Mr Jeffrey F Lawrence (Partner, Sher & Blackwell)

事務局

石川 尚 (日本船主協会 企画部副部長)
水島 大二郎 (日本船主協会 企画部)
笠原 永子 (日本船主協会 企画部)

※次回 (6月号) の OPINION は、「日本船主協会 中本光夫理事長」です。

OPINION (オピニオン) は、当協会の会長・副会長・常任理事が交代で提言や意見を執筆しております。
ホームページ (<http://www.jsanet.or.jp>) も随時更新しておりますので是非ご覧下さい。

<http://www.jsanet.or.jp/>